

街を行く

第149回 大塚 Otsuka

都電荒川線の再評価

事務所のある神田から山手線で大塚に出て、そこから都電荒川線早稲田行きに乗りました。三ノ輪橋行きは幾度か利用したことがありますが、こちらは初。停車駅は鬼子母神前や面影橋など、行かずとも聞いたことはある“微妙”な場所ばかりです。

話は脱線しますが「面影橋」と聞くと「面影橋から」(及川恒平)という半世紀前のヒット曲を思い出します。当時の若者の間では湿っぽい曲と歌詞が特徴の“叙情フォーク”と言われるジャンルが流行。荒川線沿線地域(面影橋や神田川、早稲田周辺)はその雰囲気を醸し出す格好の舞台装置となっており、ある種メッカ(最近で言う聖地)でした。貧乏暮らしの早稲田大学生(今はもう少ないでしょうね)が「人生は何だ」としんみり悩むスタイルが世のトレンドだったわけです。それを思い出して小生の青春時代も蘇ってきました。こう考えると、荒川線は完熟世代のかつての夢と希望と挫折を乗せて走るセンチメンタルなトラムなのですね。その歴史ある乗り物は今かなり近代化され、よい意味で“やぼったさ”がなくなっていました。

大塚駅南口に拡がる商店街はレトロを感じます。驚かされたのは人気のある飲食店の多さ。ランチの店探しに迷いましたが、開店前に行列する店を選び「刺身定食」を注文、当然ながら大正解!でした。

昔の色合いを残し現代的な街をつくると大塚になるのかも知れません。お隣の町は大繁華街の「池袋」。もしその雰囲気に引きずられていたら、今の個



完熟世代、青春時代に聞いたフォークソングの“聖地”である都電荒川線大塚駅前。街はかつての雰囲気を残して少し垢抜けている。

性はなくなっていたことでしょう。

街が単体で個性を發揮させるには相当の頑張りと改革も必要。時に流されるまま廃れた街を何度も見てきましたが、大塚はいまだに頑張っている街と言えます。

ですが、この先どうなるかは分かりません。都心中心部から始まっているマンションの値上がりの波はここ大塚にも及んでおり、今や庶民が手の届かない住宅地となっていました。高価格帯マンションが開発されると、大抵は昔ながらのレトロな佇まいが薄れ面白みのないミニ都心が出来上がるのです。県庁所在地の大きなターミナル駅も新幹線改札方面は再開発がお定まりのように進み、どこもかしこも拡大再生産された“金太郎飴”的都市が濫造されています。都市郊外の街も同様です。その中でこの荒川線沿線は珍しいケース。まだ個性が変わっていません。ひたす

ら街の独自性を生み出しています。

三ノ輪橋から早稲田に至るこの線の中でも大きなターミナルは王子と大塚で、山手線とつながっているのは大塚のみ。交通アクセスの優位性も大塚の魅力を維持できているポイントかも知れません。ローカル線のターミナル駅は計り知れない可能性をもっていますね。「ローカル線」万歳!

南一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エトス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。